

式 辞

暖かな春の訪れの感じられる今日の佳き日に、八幡浜市長大城一郎様、教育振興会会長大岩育夫様をはじめ、御来賓の方々、御臨席を賜り、愛媛県立八幡浜高等学校校定時制、令和五年度卒業証書授与式を執り行うことができ、卒業生、在校生、教職員にとりまして、大きな慶びであります。

ただ今、卒業証書を授与された清水禅君、松岡碧友さん、菊池翔平君、卒業おめでとございます。三人のこれまでのたゆまぬ努力に敬意を表するとともに、新たな門出を祝福いたします。

さて、皆さんにとって、本校での高校生活はどのようなものだったでしょうか。おそらく、その答えは一人一人異なると思いますが、今は、卒業というパスポートを得た達成感と充実感を味わっているのではないのでしょうか。

皆さんは、様々な理由によって定時制という進路を選択しました。もしかしたら、その決定に至るまでに、人には言えない悩みや不安があったかもしれません。そのことは、毎年校内で開催される生活体験発表大会の内容からもうかがわれます。しかし、入学後はそういった素振りを見せず、

授業や学校行事などに打ち込んでいる姿を見ると、皆さん一人一人が、本校で自分の居場所を見つけることができただと思います。

人間誰しも、その他大勢の人と違った判断を下すことは躊躇します。しかし、常に大多数の意見や考え方が正しいとは限りません。むしろ、少数の意見の中に優れたものがみられることもあります。最終的には、自分にとって何が一番大切か、ということだと思います。

時代の変化とともに、社会は急速に変容しています。バブル崩壊後、失われた三十年を経て、日本経済はようやく回復の兆しを見せ始めました。しかし、メイドインジャパンが世界を席卷した時代は遙か昔のことであり、皆さんの目には日本経済の低迷とコロナ禍に伴う息苦しさの方が印象に残っているかもしれません。

また、国際化、情報化という言葉が至る所で聞かれ、多くの人々がその流れに乗り遅れまいとしています。そのこと自体は、悪いことではありませんし、ある程度受け入れる必要があると思います。しかし、頭では分かっているながらも、それでよいのかとささやく自分もいます。

時代や社会の流れに沿うことは、ある意味、自然なこと

なのかもしれません。それが、自分の考えた結論であればよいのですが、他の人や世間がそうするからという理由で決めるのは、少し違うと思います。

これから社会に出ていく皆さんにとって、一番大事なことは、自分で考え、自分で判断し、自ら行動することです。人生百年時代が喧伝される今だからこそ、少々の失敗を恐れず、自分の信じた道を歩んでほしいと思います。数々の困難を乗り越えた皆さんには、その力があります。

もし、判断に迷うようなことがあったら、周囲に相談したり、助けを求めたりしてください。きっと、皆さんの力になってくれるはずです。

そして、自分にとっての幸せをつかみとってください。その上で、余裕があれば、他者や社会のために何ができるかを考え、行動できる人間になってほしいと思います。私たち、在校生、教職員一同、皆さんの健勝と活躍を祈っています。

結びに、保護者等の皆様に一言御礼を申し上げます。お子様が、本日晴れて卒業の日を迎えられ、さぞかし御安堵のことと心からお慶び申し上げます。また、これまで本校の教育活動に並々ならぬ御理解と御協力を賜りましたこと

に深く感謝申し上げます。

お子様の御卒業で、本校との縁はいったん切れますが、同窓生の保護者等として、今後とも本校を見守ってくださいますようお願いいたします。

卒業生の前途に幸多からんことを祈念いたしまして、式辞といたします。

令和六年三月一日 愛媛県立八幡浜高等学校長

上田 正弘